

令和8年度第1回当別町子ども・子育て会議報告書

日時: 令和8年7月22日(水)18:00~19:15

場所: 当別町総合保健福祉センター「ゆとろ」
多目的ホール

出席委員: 金澤委員(会長)、桂川委員、砂田委員、吉田委員、湯川委員、後藤委員、山田委員、
大坪委員、藤原委員
(※欠席 難波委員、津崎委員、坪田委員、皆川委員)

事務局: 江口参与、首藤参事、荒主幹、兒嶋係長、池尾係長、武藤主任

【次 第】

1 開 会 18:00 首藤参事

2 挨拶 金澤会長

3 議 題

・とうべつこども HIRARI 計画進捗状況について

資料

4 そ の 他

5 閉 会

○ 会議録(要旨)

1 開 会	首藤参事より開会の挨拶、	
2 挨 拶	金澤会長より挨拶	
3 議 題	とうべつこども HIRARI 計画進捗状況について	資料

【金澤会長】

それでは、議題について、事務局より説明願います。

【児嶋係長】

資料及び追加資料(※当日配布)に基づき説明

【金澤会長】

事務局より説明のありました、令和7年度の実施状況について、ご意見ご質問はございませんか。

<質疑応答>

【山田委員】

資料 29 ページの基本目標 3「安心してこどもを生み育てられる環境の充実」の NO.47 妊婦一般健康診査の事業について、受診票交付数 63 件というのと、受診数 87 件というところに差異がある。受診票は、母子手帳をもらって健康推進係に行った時にもらえると記憶しているが、それに比べて病院の受診数が多かったということであるのか、受診数がどのような判断になっているのかお聞きしたい。

【荒主幹】

一応どちらも実人数ということになるが、交付数と受診数はおそらく転出、転入があることによって、ずれている。また、交付してすぐに受診はしないため、年度で区切ると少しずれてくるというような実態となっている。皆さんきちんと受診されている。

【金澤委員長】

受診数 87 件というのが、87 人が利用したということであるならば、受診者数の方が正しいのかもしれない。

【首藤参事】

来年度の評価の際に、文言整理を行う。

【金澤委員長】

資料 4 ページの NO.4 乳児家庭全戸訪問事業について、自分の記憶だと、全国平均では 95%くらい利用しているはずである。当別町だと 0 歳児 50 人のうち 43 人が利用しているということで、パーセンテージでいうと 86%になる。86 と聞くと高く感じるが、利用していない家庭というのは、全員がそういうわけではないが、虐待のリスクがある。利用していない家庭をアセスメントしながら、11 ページの NO.16 子育て世帯訪問支援事業についてこちらからアプローチをかけることで、虐待のリスクが下がると感じた。全国平均と比べると、少し低いのが

気になった。

【荒主幹】

実態をお伝えすると、結果としてはすべてのお母さんにお会いすることができている。なぜそのパーセントが低くなるかというと、里帰り分娩で当別町外にいる方は、町で訪問ができないため、計上することができない。しかし里帰りしている方にも必ず連絡し、里帰り先の市町村へお手紙を出し、訪問をしてもらっている。

【金澤委員長】

全国でも同じように里帰り出産する方はいるが、当別町には産婦人科がないため、このパーセンテージになると感じた。

【後藤委員】

このような子育て政策に対する成果や、達成したというような実績について、町の広報などで PR を行っているのか。

【首藤参事】

役場としては、議会がそういう場であると思っているが、子育て支援という括りではしていない。このような事業を行いました、というのを各課ごとに議会の場で公表している。今日皆さんにお伝えしたことも HIRARI 計画についても、今後載せていくことを検討しつつ、ご意見として受け取らせていただく。

【後藤委員】

いいニュースはいくら聞いてもいい。また、関わっている人しかなかなか知りえない情報というのがこういった計画だと思う。子育てに関することはアンテナを張っている人がたくさんいて、当別町外の人でもこのような情報をどこかで聞く機会がある。こういったことは、お母さんお父さんの言葉、口から伝わっていくことが多いと感じるため、どこかで目にするとより話しやすくなり、広まっていくと思うため、ぜひ発信していただきたい。

【金澤委員長】

自分の周りも、子どもができると、札幌から転出して子育ての何かが進んでいるところに引っ越す。そういった人たちがまた SNS で発信すると、AI でも検索すると出てくるようになるため、今のお話とても大事だと思う。

【金澤委員長】

資料14ページにあるこども家庭センターの設置について、2年前は全国で約 50%、昨年で約 71%の設置率となっている中、北海道は遅れており、昨年で 30%ちょっとだったと思う。こども家庭庁は、今年度末までに設置することを目標としているため、当別町は遅れていない。妊娠期から乳幼児期をつなげて支援するということで、虐待防止という意味でも大事なセンターになるため、いいことが起きてほしい。

【首藤参事】

こども家庭センターについてお話をせらうと、子ども未来課では虐待をメインで取り扱っており、センター長を私が拝命している。そして、母子保健の方は、妊娠期から切れ目のない支援を主に行っており、保健師が多くいる中、現場監督という意味合いで統括支援員を荒が仕切っている。元々ゆとろの中に子ども未来課と保健福祉課があるため、以前から連携はとれており、日常的に共有、連携できる環境が整っている。4月からは特に、子ども未来課と保健福祉課で合同ケース会議というのを最低でも月 1 回行っており、これまで以上に連携する環境が整っ

た。

【金澤委員長】

利用者側からしても、妊娠期から子育て期までつながっていた方が行きやすく、どこに相談すべきかわかりやすく、安心感がある。

4 その他

【兒嶋係長】 次回会議の開催予定について連絡(来年2月開催を予定)

5 閉 会